



字江土



13  
2946  
54













けんめんがらのをまかりて  
 しくとうしきひきとあわ  
 がもことばをいふうつを  
 ききけんのこく

破忍之鏡



人のいふまじりまじり  
 二文字のいふまじりの  
 けんめんがらのをまかりて  
 しくとうしきひきとあわ  
 がもことばをいふうつを  
 ききけんのこく

けんめんがらのをまかりて  
 しくとうしきひきとあわ  
 がもことばをいふうつを  
 ききけんのこく

けんめんがらのをまかりて  
 しくとうしきひきとあわ  
 がもことばをいふうつを  
 ききけんのこく

けんめんがらのをまかりて  
 しくとうしきひきとあわ  
 がもことばをいふうつを  
 ききけんのこく



いふのうんづいけのわやま  
とりつらうぶるうなけりき  
けりさささうすいままも  
りわいありといつことむの  
ことへいづのんある人も  
まゝ入るらまらこののち  
かまわつてそのまを



恋の

保之鏡

いふのうんづいけ  
とりつらうぶるうな  
けりさささうすい  
まもりわいありとい  
つことむの

ことへいづのん  
ある人もまゝ入る  
らまらこののち  
かまわつてそのま











見んとすは  
 天のいふを  
 かくとるを  
 大にさしひと  
 かくとるは  
 人のこと

悪  
 報  
 鏡



あくしよとて  
 てんとうさあさ  
 まらけいひと  
 くよりかみこと  
 けりまうあし  
 まるふりて  
 てんとうさあ  
 かくめんあ  
 らんがとてん  
 のまのまらけ  
 づりぎのまら  
 りんあんのい  
 ちまおとつり  
 ちのあまの  
 らんをさ  
 平ぎん  
 びうか  
 とかり

こころを  
 じざんは  
 ちんけい  
 こころを  
 こころを  
 こころを

こころを  
 こころを  
 こころを











別れおやのちんまゝに  
 子にりたるのちんまゝに  
 これしちんまゝのちんまゝに  
 ちんまゝ

父のちんまゝのちんまゝに  
 まちひてちんまゝのちんまゝに  
 ちんまゝのちんまゝのちんまゝに  
 ちんまゝのちんまゝのちんまゝに

親の恩の鏡



ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの



ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの

ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの

ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの

ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの

ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの

ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの  
 ちんまゝのちんまゝの





此の如く  
 世に  
 ありては  
 人の  
 心は  
 さまざま  
 なりて  
 人の  
 心は  
 さまざま  
 なりて

法臣之鏡

此の如く  
 世に  
 ありては  
 人の  
 心は  
 さまざま  
 なりて



此の如く  
 世に  
 ありては  
 人の  
 心は  
 さまざま  
 なりて

此の如く  
 世に  
 ありては  
 人の  
 心は  
 さまざま  
 なりて

此の如く  
 世に  
 ありては  
 人の  
 心は  
 さまざま  
 なりて



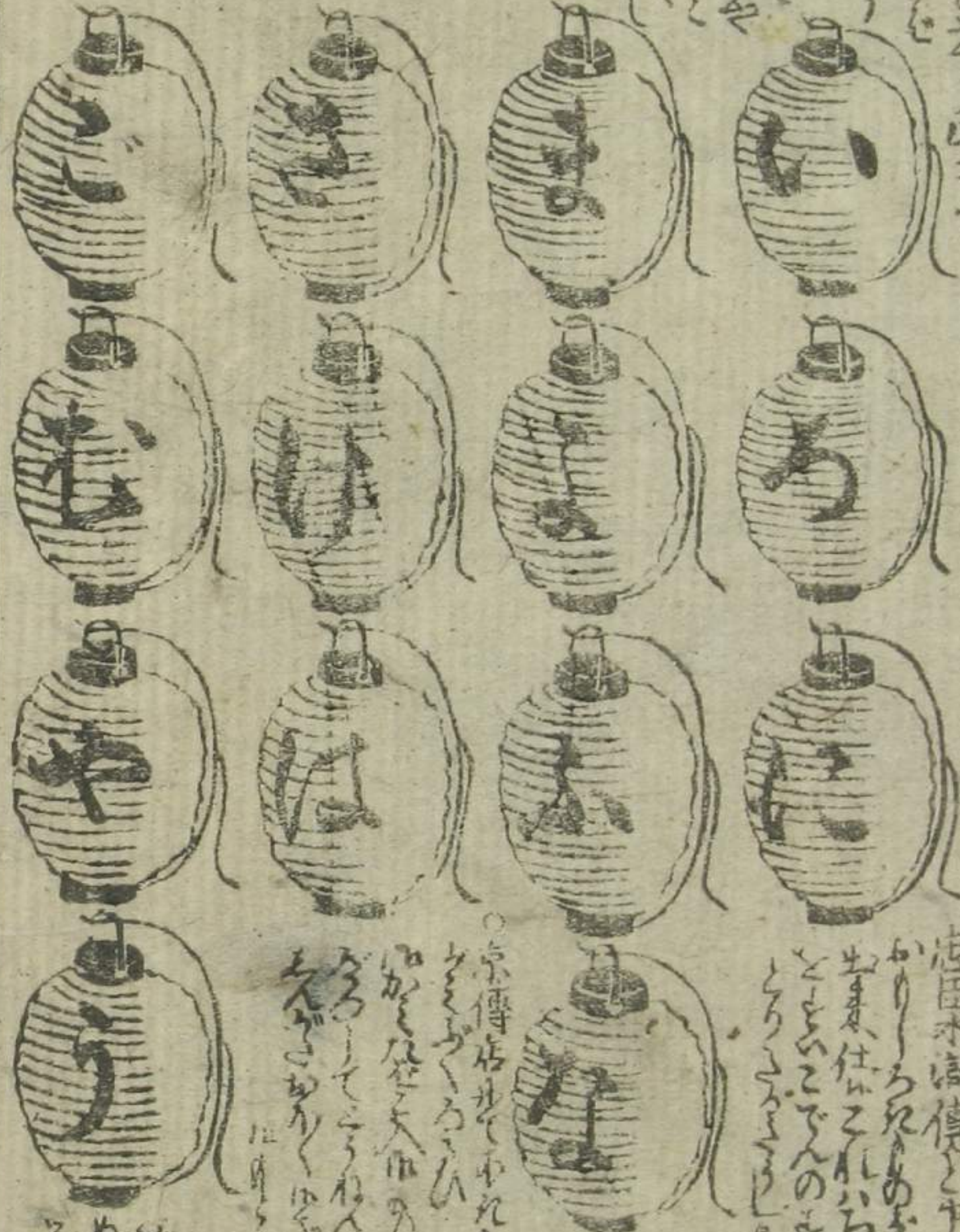
しんぎのり

大げいりあつとつてけととつて  
やうなとつてしんぎ大坊とつて  
しんぎのりあつとつてけととつて  
あつとつてけととつてけととつて  
あつとつてけととつてけととつて  
あつとつてけととつてけととつて

出立団魚

京傳作

○山東京傳作也  
忠臣本傳傳とや五つりのみ  
かりらるるあつとつてけととつて  
あつとつてけととつてけととつて  
あつとつてけととつてけととつて  
あつとつてけととつてけととつて



○京傳店也つれまひのり  
つれまひのりつれまひのり  
つれまひのりつれまひのり  
つれまひのりつれまひのり  
つれまひのりつれまひのり  
つれまひのりつれまひのり

千秋萬歳  
あつとつてけととつて

